



F - Release

エフ・リリース
NPO法人 ふじ環境倶楽部 情報誌
VOL.53 2007. 9.30 発行

NPO法人 ふじ環境倶楽部は、市民・企業・行政のパートナーシップを基本としながら、

富士地域の自然及び社会的資源の掘り起こし、磨き上げ
地域資源を活用したまちづくり計画の策定、まちづくり活動の実践
市民団体相互のネットワークの構築 等を通じて、市民がこの地域で誇りを持って働き、暮らしていける「資源循環・環境共生型のまちづくり」を目指して、楽しく、ゆっくり、着実に歩んでいます。(平成12年11月9日 法人設立)〒417-0815 富士市増川19-1

TEL.0545-38-0088 FAX.0545-39-0057

E-mail: info@ad-ism.com URL: http://www.fujikankyo-club.org

平成19年9月22日(土) 8:30~15:00

【親子1Day Trip チャレンジャー】 富士市都市計画課主催

参加者: 渡井、小池、山田、加藤、浅井、(各隊長役)

太田(事務局) 渡辺(写真)

市内の小中学生親子18組43名が5つのグループに分かれて、路線バスや鉄道など、公共交通を利用し、指定されたコースのTrip(移動)数の限界にゲーム感覚でチャレンジするMM()ワークショップ。JR駅などの主要な交通結節点や市内各所の「まちの駅」もトリップカウントされ、「ご当地クイズ」も出題されました。



13日のプレ学習会で隊長を中心に作戦が立てられ、公共交通はもちろん、徒歩を交えて、効率的にまちの駅の通過ポイントを稼いだ組が良い成績をあげました。とても楽しい、充実した1日でした。参加された皆さま大変お疲れ様でした。

モビリティ・マネジメント(Mobility Management)とは、ひとり1人のモビリティ(移動)が、社会的にも個人的にも望ましい方向に自発的に変化することを促す、コミュニケーションを中心とした交通政策です。過度な自動車利用から公共交通(電車やバスなど)自転車等を適切に利用する方向道路混雑・CO2による環境問題・交通事故・公共交通の利用者減少などの問題を少しずつでも解消しようとする新しい取組です。(略称: MM)



平成19年9月28日(日) 田宿川・滝川水辺交流
参加者: 小池、渡井、加藤、浅井、黒川、井出、太田
(本吉原自然学校メンバー、高村、山田高先生 ほか)

今泉チームは、お昼の「焼きそばパーティ」用に、麺を提供していただいた荒川製麺前を8:20頃スタートした。岳南鉄道の陸橋の下は、川の中にシートパイル(鋼矢板)を打ち込んであり、「堰」のようにになっている。このため、水量が少ないとカヌーやボートが引っかかってしまい、川の中で持ち上げなければならない。中学生はその持ち上げる役目だ。しかし、当日は水量が思ったより多く、カヌーはサポートなしでもなめらかに堰を越し、ボートもちょっと手を貸すだけで楽に越していった。滝川との合流地点では、既に元吉原のカヌーが到着していた。引き潮で大変だったろうに思っていたら、海からの風(追い風)が強く、スムーズに上がってきたそうだ。9:30から全体の開会式を行い、その後、2班に分かれて「カヌー教室」と「自然観察会」を交互に行った。「カヌー教室」は、ボーイスカウトの高村団長がパドルの操作方法から指導し、その後順々に水面に出て行った。3~4人が乗れるカナディアンカヌーに比べ、1人で乗るカヤックは、バランスを取るのが難しい。それでも子供達は、20分もすると慣れてきて、上手にまっすぐ進めるようになった。「自然観察会」は、元吉原幼稚園園長であり、富士自然観察会の会長でもある山田高先生が講師だ。先生は堤防に生えている植物を引っこ抜いては、「これ何に見える。これはねー、ネズミの尻尾に見える?だから・・・」と言いながら、観察用のルーペで子供達に植物を覗かせる。「ウワッ」とどよめき上がる。初めて先生に会った子供が、「先生これは?」とどんどんなつき、取り囲むようになる。どちらの教室も、もっと長くやりたかったが、雨を気にしつつ、残念だが早めに終了しようとした。しかし子供たちはなかなか川から上がろうとしない。小学生も中学生も「またやりてー」「今度いつ?」と、早くも次回を楽しみにしてくれている。

11:00 過ぎから、雨バージョンの屋根付きの会場に場所を移し、焼きそばパーティを開いた。80人前の焼きそばが、ほぼあっという間になくなった。【写真感想: 小池さんのブログより抜粋引用】

